

2003年度第3四半期決算 説明資料

2004年2月16日
川崎汽船株式会社

1-1. 2003年度第3四半期決算概要

(単位:億円)

		2003年度 上 期	2003年度 第3四半期	2003年度 9ヶ月累 計	2002年度 9ヶ月累 計	前年同 期比較 増減率
売 上 高	連結	3,621	1,757	5,378	4,732	+13.7%
	単体	2,950	1,414	4,364	3,734	+16.9%
営 業 損 益	連結	343	157	500	204	+145.7%
	単体	282	110	392	137	+186.1%
経 常 損 益	連結	304	136	440	154	+186.6%
	単体	251	98	349	106	+229.2%
当 期 損 益	連結	159	58	217	-	-
	単体	125	46	171	-	-
為 替 レ ー ト	平均	¥ 119.24	¥ 109.83	¥ 116.13	¥ 123.42	5.9%高
バ ン カ ー 価 格	平均	\$ 171.06	\$ 168.36	\$ 170.13	\$ 155.25	9.6%高

1-2. 当第3四半期(4月-12月)の経営環境

(マクロ経済環境)

- 米国:イラク戦争早期終結、株価回復、景気回復基調
- 欧州:弱含みだが、荷況堅調 日本:緩やかな底離れ
- アジア:SARSへの影響は軽微、中国は高成長継続

(当社の事業環境)

- 燃料油価格の高値推移
- 9月後半からの急激な円高進行
- コンテナ船各航路荷動き堅調
- コンテナ船欧州・北米・大西洋運賃率修復
- 不定期船・タンカー市況活況に推移
- 自動車船中東・豪州向け輸送台数堅調

1-3.部門別業績動向(コンテナ船)

コンテナ船:期央見込み通りの業績達成

(積高:02F第3Q155万TEU 03F第3Q171万TEU+11%増)

- 中国出し貨物を中心に好調に荷動き推移
- 北米・欧州・アジア航路とも積高堅調推移
- 欧州・北米・大西洋航路 運賃率修復
- アジア/地中海航路でサービス増強(4月下旬)
- 燃料油価格高値推移、急激な円高進行

1-4. 当社コンテナ船積高・消席率推移

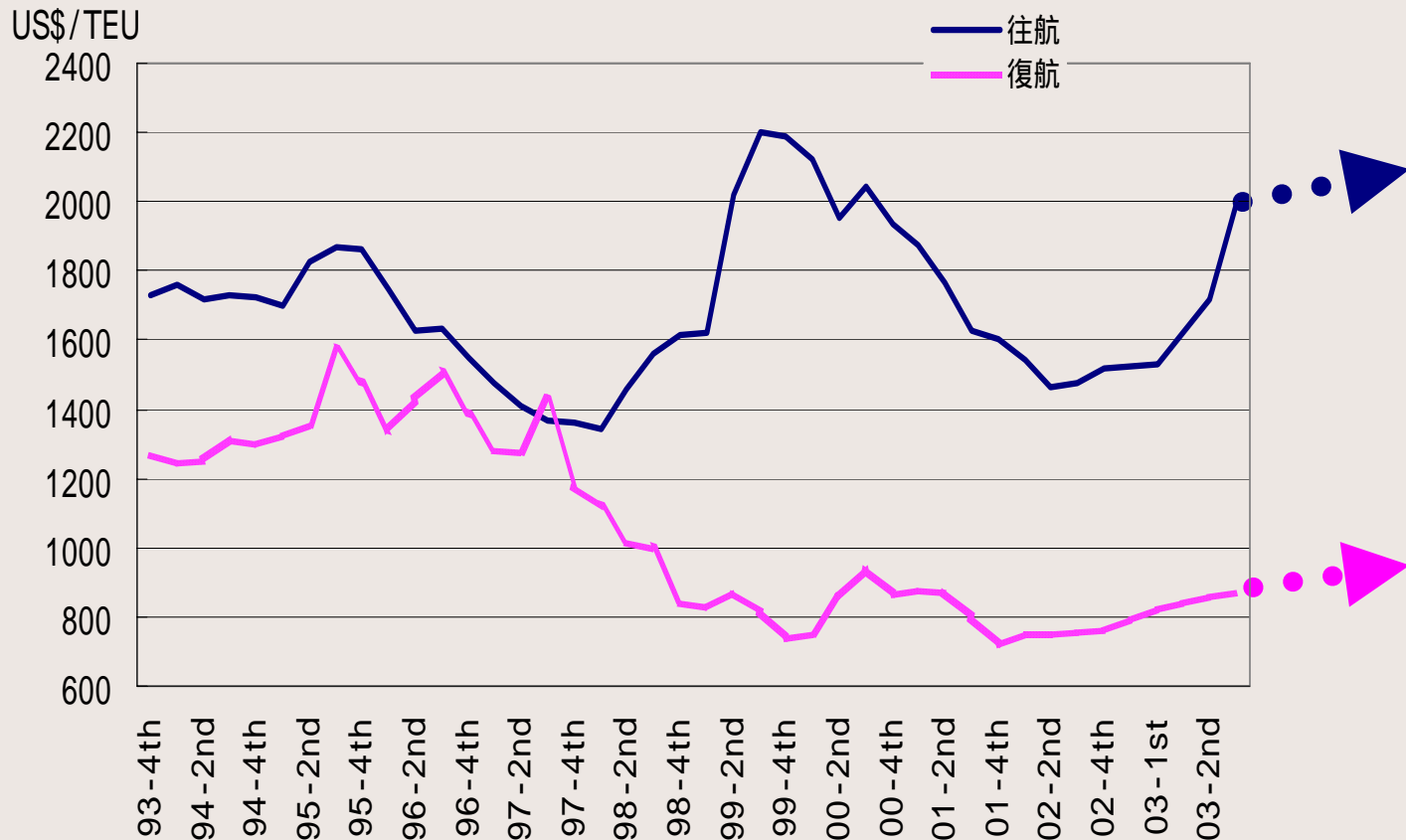
積高(単位/千TEU)	往復航	02年1H	02年3Q	02年	02年通期	03年1H	03年3Q	03年	前期比較 増減率
		実績	実績	9ヶ月実績	実績	実績	実績	9ヶ月実績	
北米関連	往航	238	113	351	462	261	120	381	8.5%
	復航	104	62	166	220	109	57	166	-0.1%
		342	175	517	682	370	177	547	5.8%
欧州関連	往航	140	78	218	300	179	87	266	22.2%
	復航	94	55	149	217	110	67	177	18.5%
		234	133	367	517	289	154	443	20.7%

消席率	往復航	02年1H	02年3Q	02年	02年通期	03年1H	03年3Q	03年	前期比較 9ヶ月
		実績	実績	9ヶ月実績	実績	実績	実績	9ヶ月実績	
北米関連	往航	94.5%	92.6%	93.9%	92.6%	94.2%	85.5%	91.3%	-2.6%
	復航	53.3%	63.9%	57.0%	60.4%	58.0%	59.4%	58.5%	1.5%
		76.5%	79.9%	77.7%	79.0%	79.6%	74.9%	78.0%	0.3%
欧州関連	往航	87.9%	90.7%	89.0%	90.6%	94.2%	85.9%	91.3%	2.3%
	復航	74.2%	80.9%	76.4%	82.5%	75.0%	88.3%	79.6%	3.1%
		81.8%	86.4%	83.4%	86.9%	85.9%	87.0%	86.2%	2.8%

*欧州関連の積高にはインド出しを含まず 5

1-5. アジア/北米航路平均運賃推移

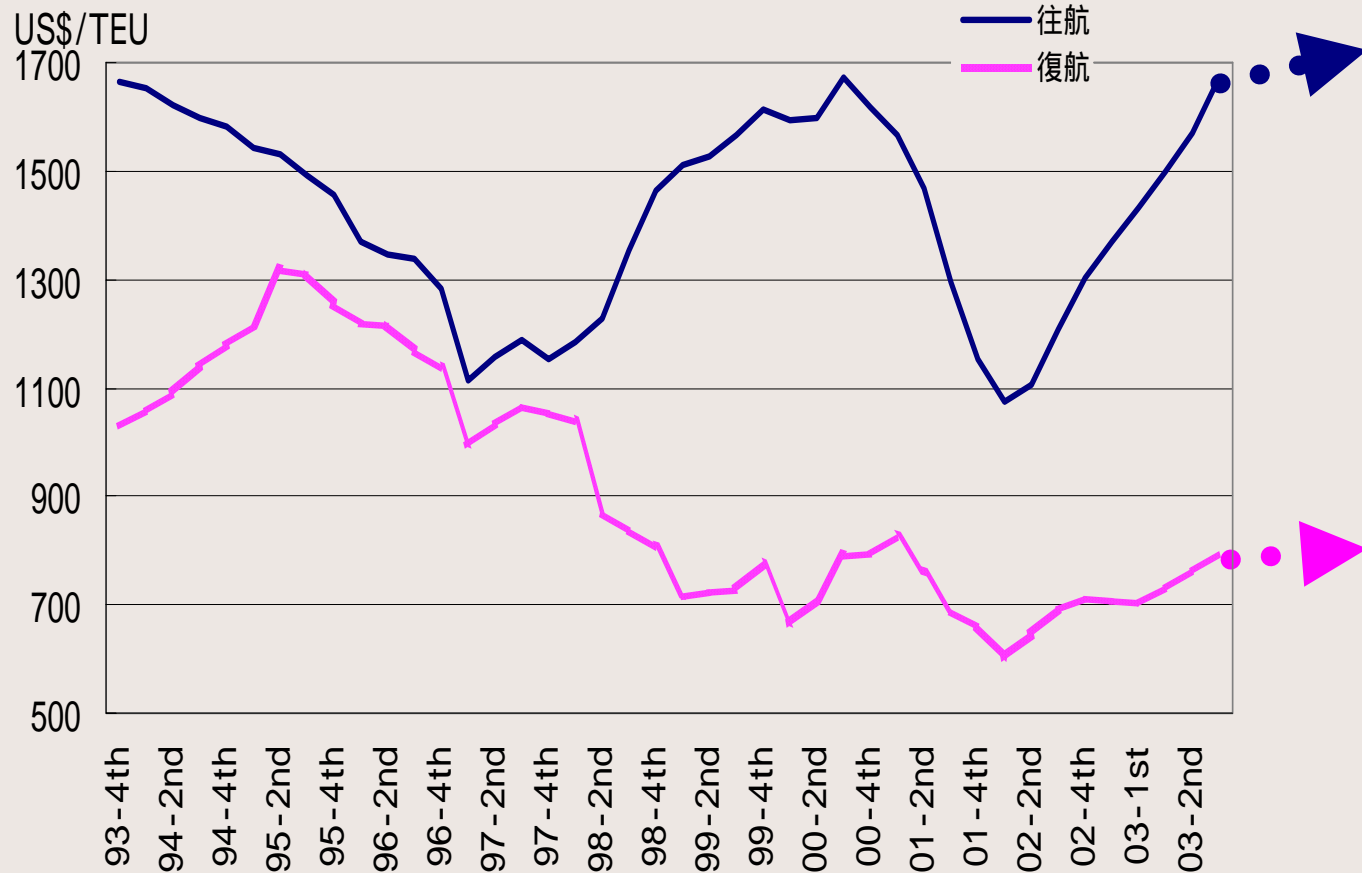
(出典: CONTAINERIZATION INTERNATIONAL社)



当社往航平均運賃(9ヶ月累計)は去年同期比較30%上昇。

1-6. アジア/欧州航路平均運賃推移

(出典: Containerization International社)



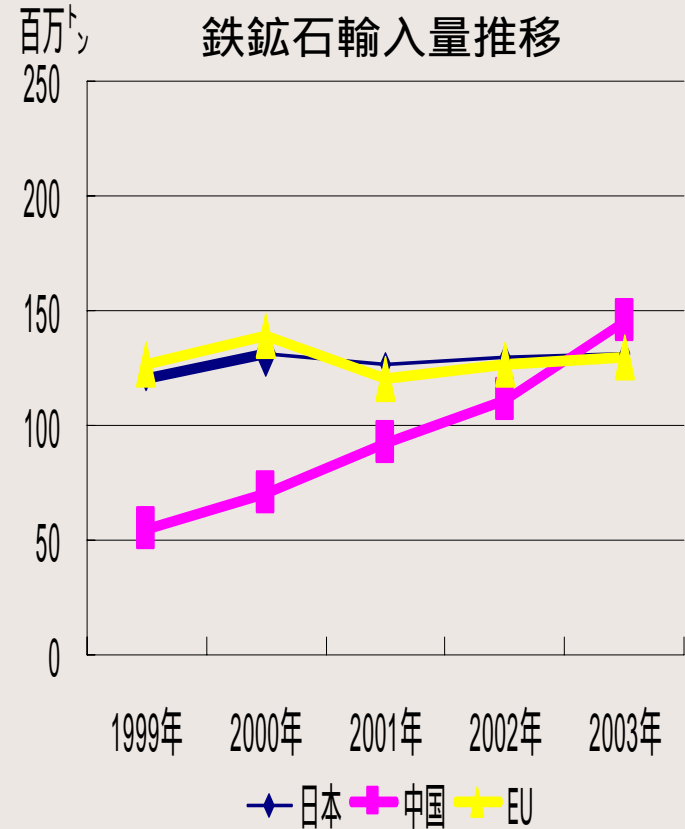
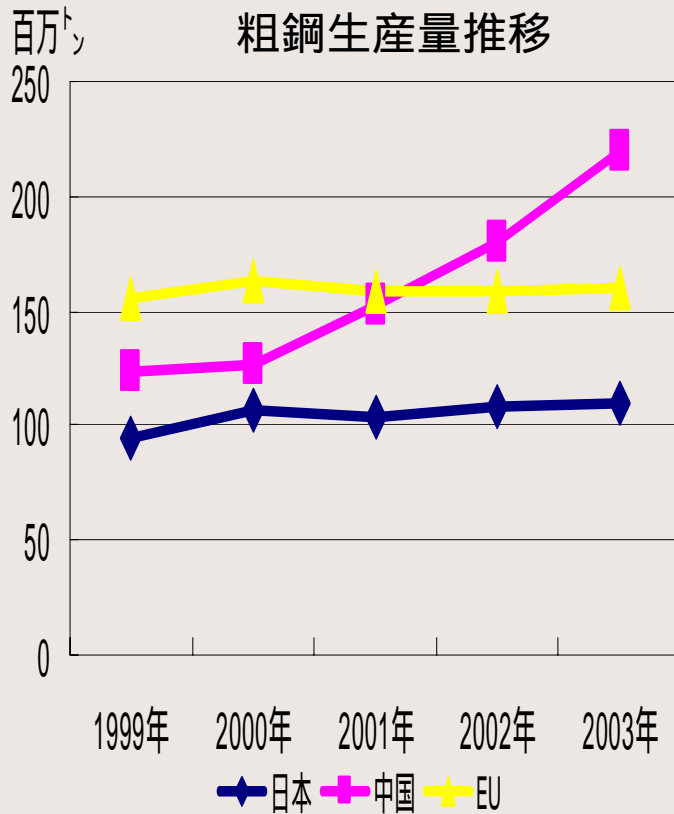
当社往航平均運賃(9ヶ月累計)は去年同期比較38%上昇。

1-7.部門別業績動向(不定期専用船)

不定期専用船:期央見込みを上回る業績達成

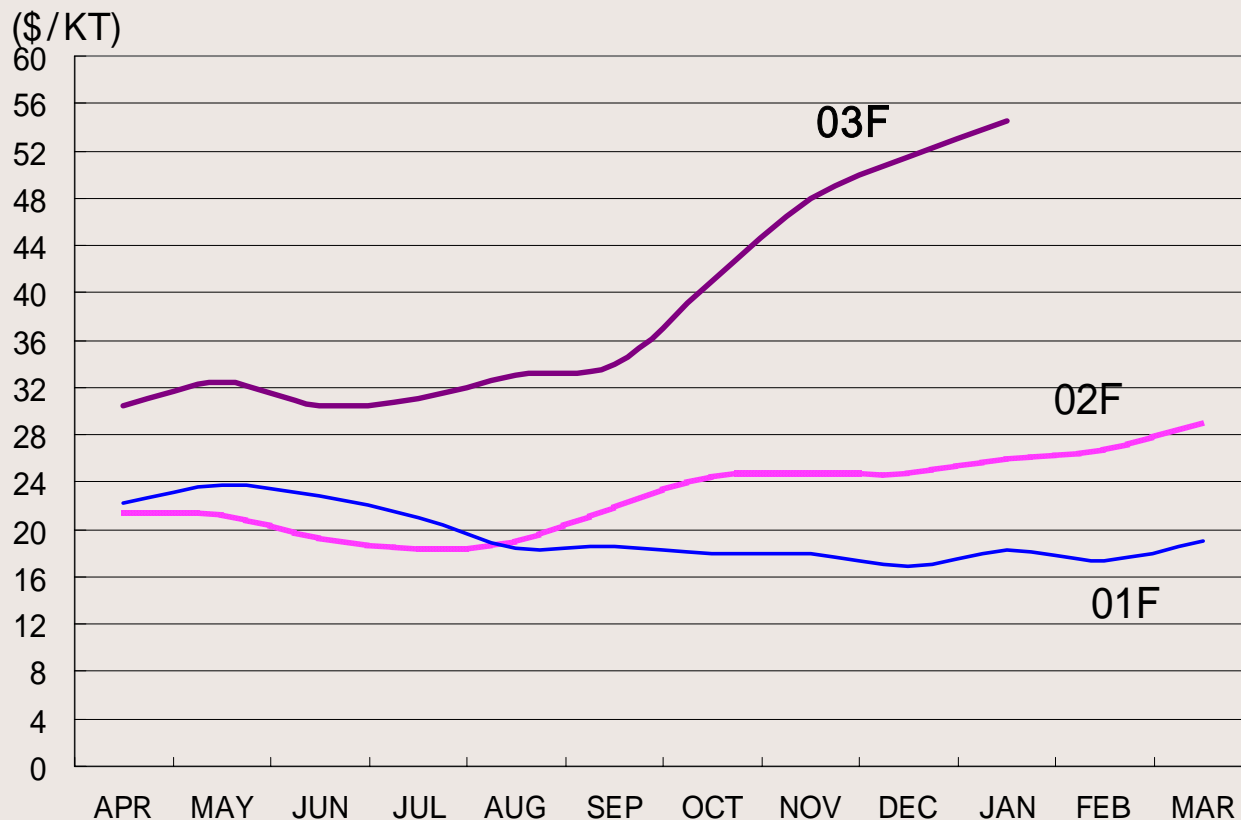
- 不定期船:運賃市況高水準で推移
全船型で営業規模大幅増、効率配船
(稼動延ト>8611万ト> 10119万ト>+18%)
- 自動車船:北米向け輸送台数減少
中東・豪州向け輸送堅調推移
効率配船による運航コスト削減
(積高120.6万台 125.3万台 +4%微増)

1-8.主要国の粗鋼生産・鉄鉱石輸入量推移

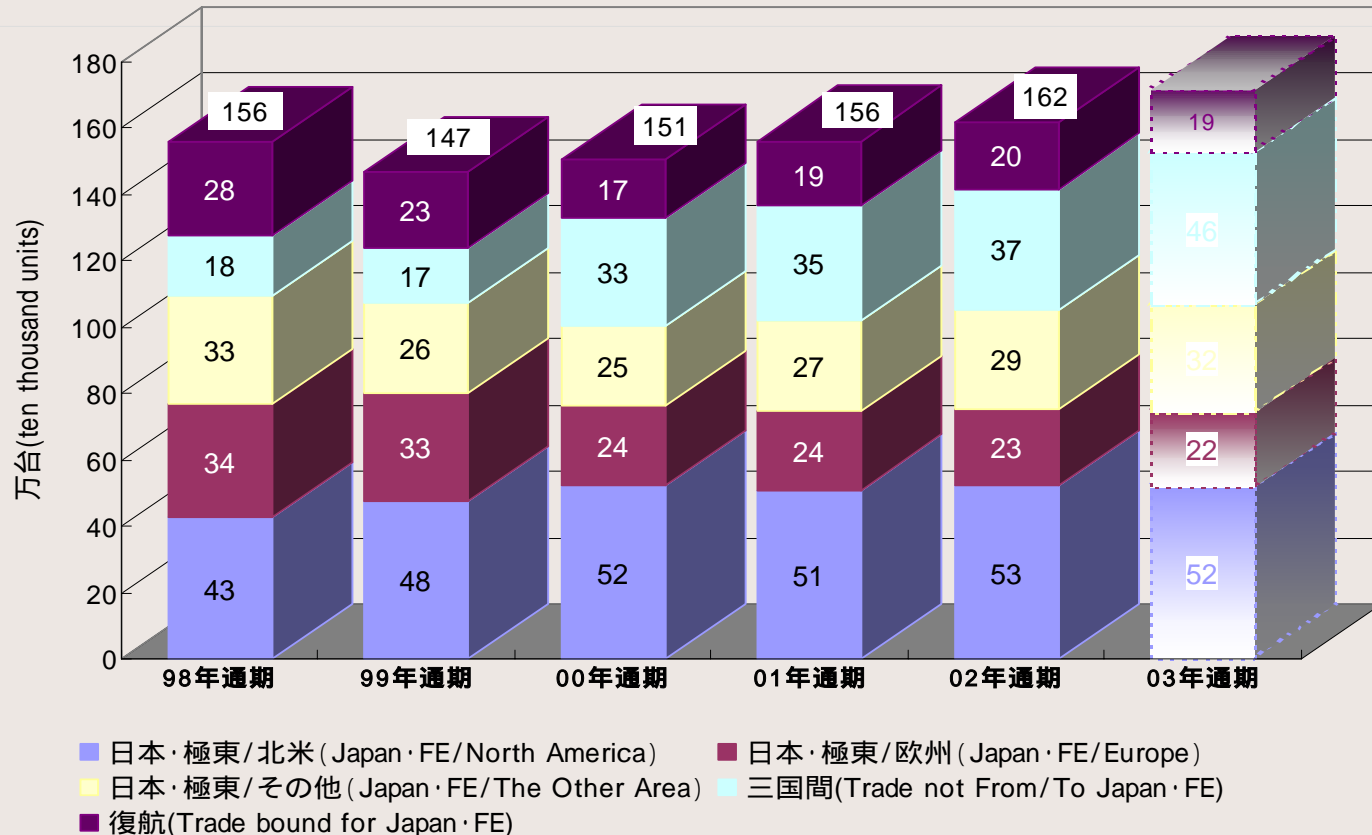


1-9. 不定期船マーケット (Bulk Market)

不定期船マーケット (PNMX USG/JPN GRAIN)



1-10. 自動車船積高推移



2003年度9ヶ月累計対前年同期比較 (02年:120.6万台 03年:125.3万台)

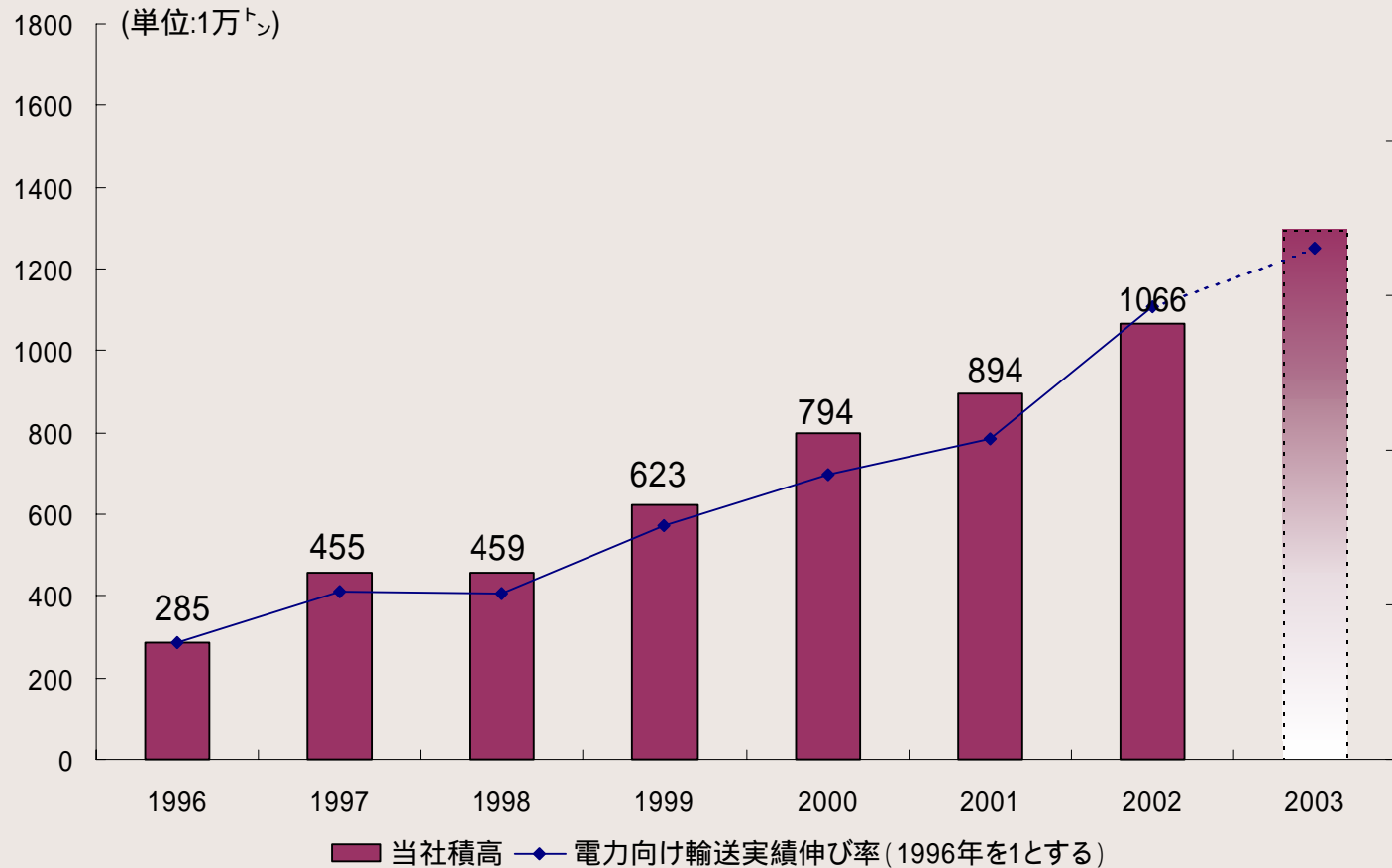
北米向け39.2万台 (10.7%)、欧州向け16.7万台 (3.6%)、その他21.9万台 (+18.6%)、三国間27.5万台 (+22.9%)、復航15.2万台 (5.7%)

1-11.部門別業績動向(エネルギー-資源輸送)

エネルギー-資源輸送:期央見込みを上回る

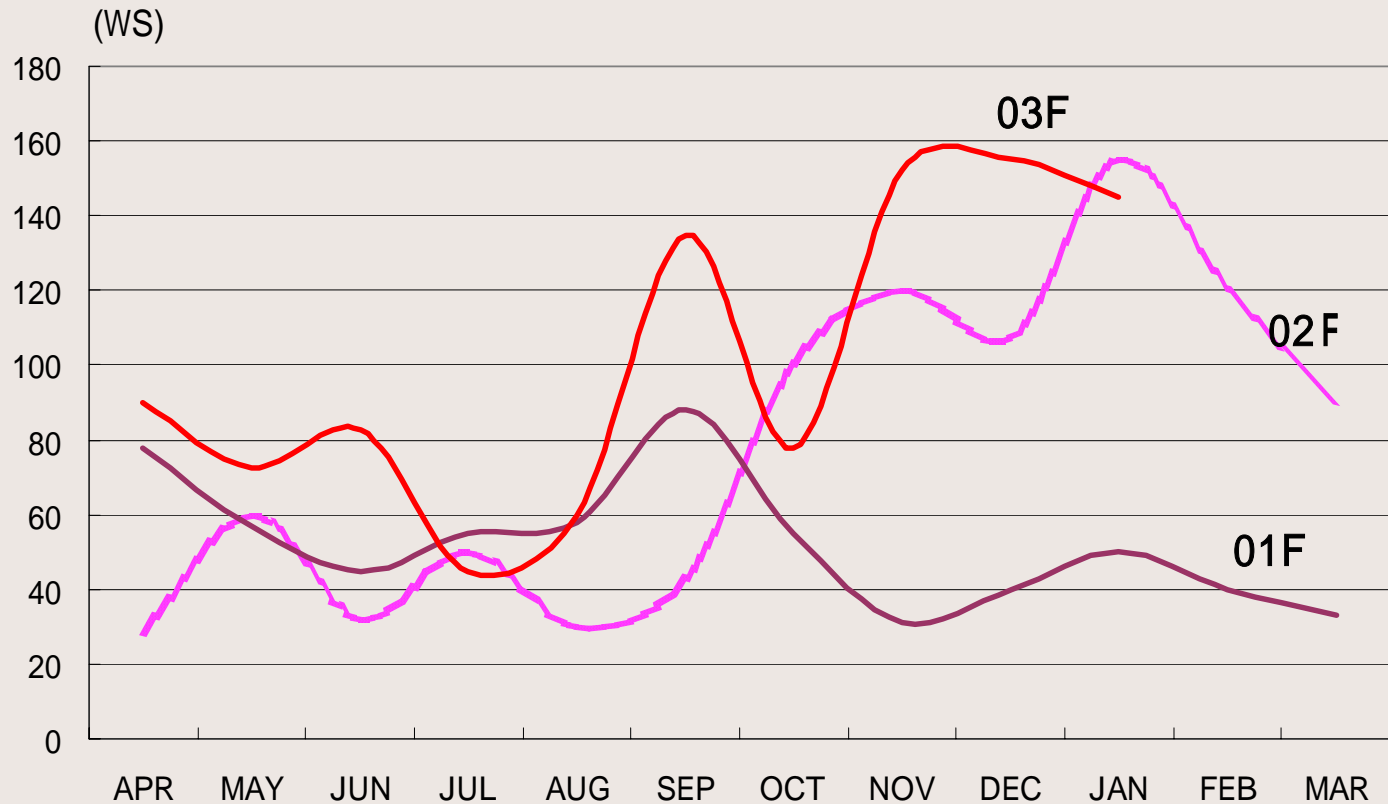
- 液化ガス運搬船:既契約諸プロジェクト順調に遂行
(稼動延トン415万トン横ばい)
- 電力炭:新造船投入効果もあり輸送量大幅増加。
一部で逆鞘配船あり。
(稼動延トン917万トン 1108万トン+21%増)
- 油槽船:市況は一時的な調整あるも安定推移
(稼動延トン1719万トン 1882万トン +10%増)

1-12.電力炭輸送実績推移



1-13. タンカーマーケット (Tanker Market)

タンカーマーケット(VLCC AG/JPN)



1-14.部門別業績動向(連結子会社)

- 内航・フェリー部門: 効率配船、輸送量増加
- 運輸付帯サービス: 貨物扱い増に支えられ業績安定推移

2-1. 2003年度通期見込

(単位:億円)

		第3四半 期9ヶ月 実績	第4四半 期見込	通期見 込	期央公表 (11月13日)	2002年度 通期実績	増減額
売 上 高	連結	5,378	1,692	7,070	7,000	6,327	+743
	単体	4,364	1,336	5,700	5,650	4,998	+702
営 業 損 益	連結	500	150	650	600	293	+357
	単体	392	108	500	470	198	+302
経 常 損 益	連結	440	120	560	530	237	+323
	単体	349	101	450	430	164	+286
当 期 損 益	連結	217	73	290	300	104	+186
	単体	171	49	220	210	65	+155
配 当	単体	5円	5円	10円	10円	5円	+5円
為 替 レ ー ト	平均	¥116.13	¥105.00	¥113.33	¥115.00	¥122.29	¥8.29 高
バンカー価格	平均	\$170.13	\$170.00	\$170.12	\$166.00	\$161.60	\$8.4高

前提:第4四半期為替105円(変動1円 2.0億円、バンカー価格\$170(変動10ドル 6億円)

・市況 コンテナ運賃10ドル 単体+/-3億円、不定期 10% 単体+/-1億円

タンカー WS10 単体+/-1億円

2-2. 部門別業績動向

- 部門共通の悪化要因：燃料油の高騰、為替の更なる円高
- コンテナ船：需要動向に対応した配船調整、運航コストの更なる削減
運賃率の修復を背景に、積高、売上ともに大幅増
米国でのBSE問題等危惧されるが、業績への影響僅少
業績は前期を大幅に上回る
- 不定期専用船（不定期船）運賃市況高水準で推移
（自動車船）豪州・中東向け荷動き増加
業績は前期を上回る
- エネルギー資源輸送：油槽船における市況上昇
業績は前期を上回る

2-3.投資計画とキャッシュフロー

	2001年度 通期実績	2002年度 通期実績	2003年度 通期計画
投資額(注)	314	268	594
船舶関連	238	70	403
その他	76	198	191
(内、単体)	120	45	140
営業キャッシュフロー	331	329	670
(減価償却費)	(333)	(295)	(245)
投資キャッシュフロー	185	237	470
フリーキャッシュフロー	146	92	200

KV-PLANの総括

1. 数値目標
2. 基本課題

1-1. KV-Plan利益目標達成状況

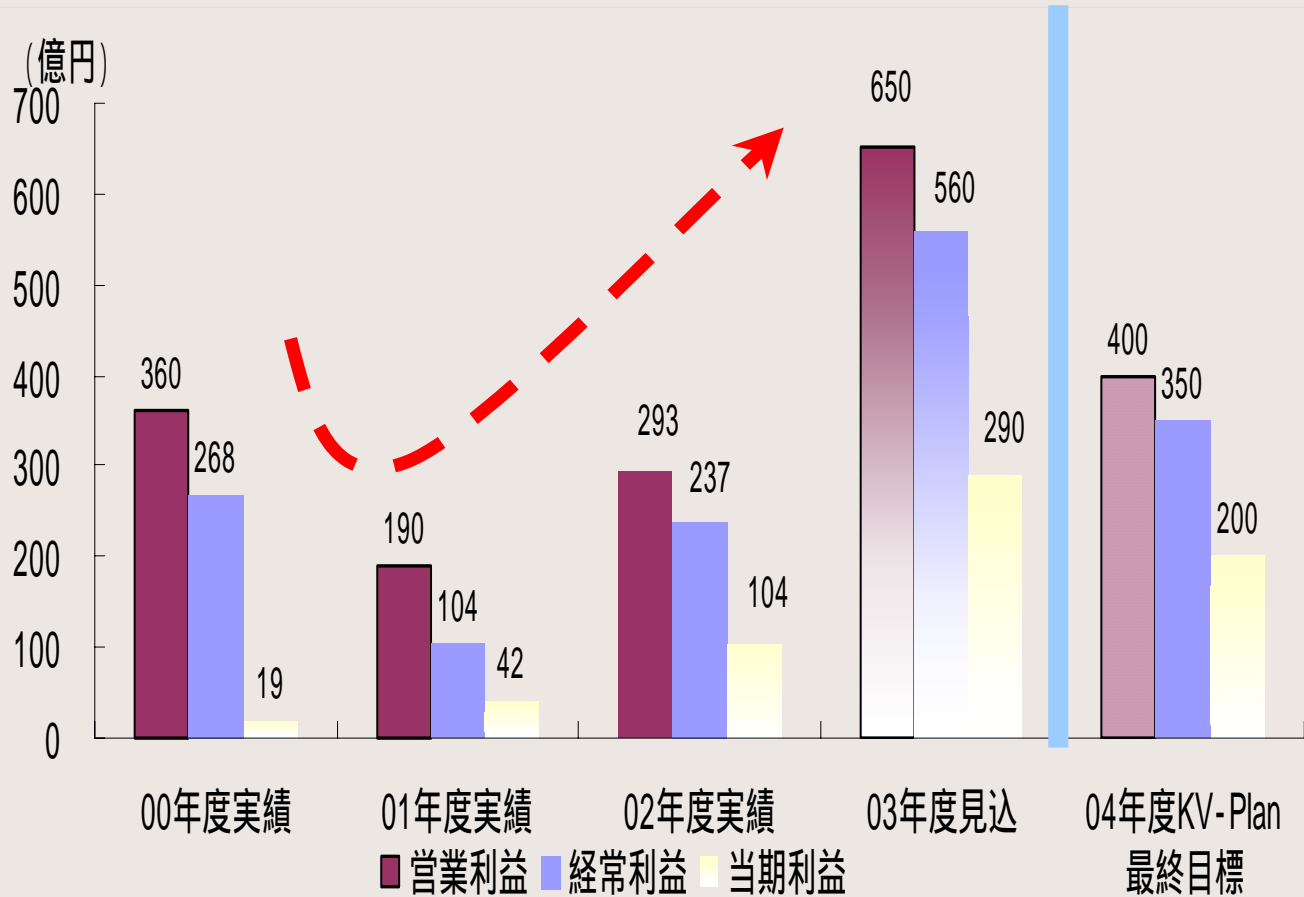
(単位:億円)

		2002年度 通期実績	2003年度 通期予想	KV-Plan 最終目標値	KV-Plan計画 目標達成度
為替	/US\$	¥122	¥114	¥130	¥16高
バンカー	/MT	\$162	\$170	\$130	\$40高
単体	売上高	4,998	5,700	5,000	114%
	営業利益	198	500	270	185%
	経常利益	164	450	240	188%
	当期利益	65	220	130	169%
連結	売上高	6,327	7,070	6,500	109%
	営業利益	293	650	400	163%
	経常利益	237	560	350	160%
	当期利益	104	290	200	145%

連結・単体ともKV-PLAN最終年度の目標数値を大幅に上回る

計画前提より円高、バンカー高を克服

1-2. 連結業績推移 (00年度 ~ 03年度)

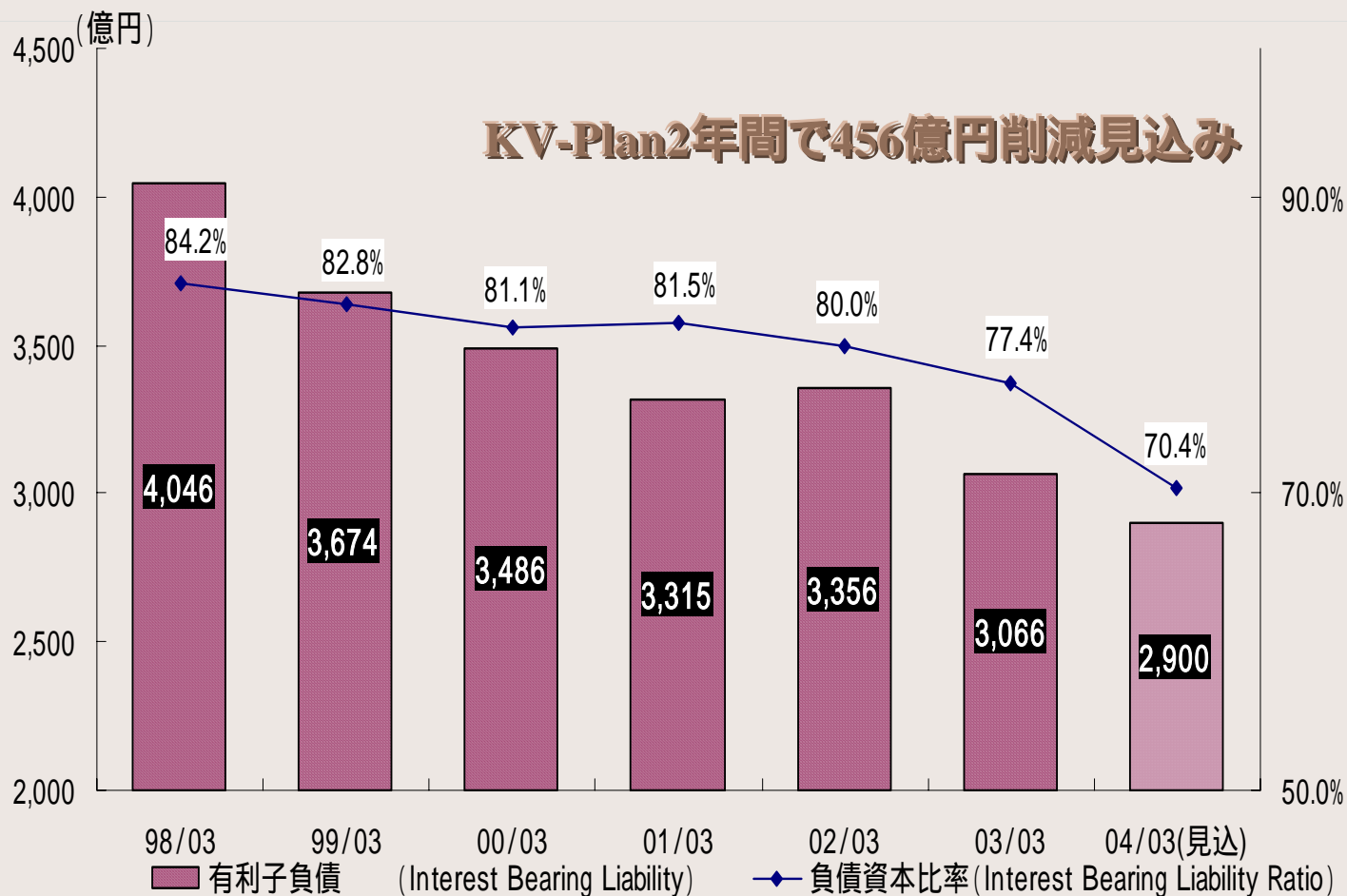


1-3. KV-Plan数値目標達成状況(連結ベース)

	2001年度 通期実績	2002年度 通期実績	2003年度 通期見込	KV-Plan 最終目標値	KV-Plan計画 目標達成度
売上高	5710億円	6327億円	7070億円	6500億円	+570億円
経常利益	120億円	237億円	560億円	350億円	+210億円
株主資本	777億円	820億円	1140億円	1100億円	+40億円
有利子負債残高	3356億円	3066億円	2900億円	2750億円	-150億円
ROE	6.5%	13%	30%	19%	+11%
ROA	2.3%	4.5%	10%	7%	+3%
株主資本比率	14.6%	15.9%	21%	22%	-1%
営業CF	331億円	329億円	670億円	550億円	+120億円
フリーCF	146億円	92億円	200億円	200億円	-億円
有利子負債比率	79.8%	77%	70%	70%	-%

主要財務指標の大半は目標達成。株主資本比率も20%台到達。有利子負債も着実に削減。

1-4. 有利子負債削減状況(連結)



1-5. CS-300コスト削減状況(02-03年度)

(KV-PLAN3ヵ年目標額300億円) (単位:億円)

コストセーブ項目	2002年度	2003年度	累計
船費・傭船料削減	65	24	89
大型化に伴う合理化効果	58	10	68
貨物費削減	57	36	93
サービス改編・合理化効果	26	0	26
関係会社営業関連費用削減	10	6	16
一般管理費削減	11	6	17
機器費・空コン費削減	7	11	18
合計	234	93	327
(部門別内訳)			
コンテナ船事業部門(含む海外)	168	69	237
他事業部門(含む海外)	50	12	62
国内関係会社	16	12	28

2年間で3ヵ年削減目標(300億円)を上回る削減見込み。

2. KV-Plan基本課題の達成評価

< 基本課題 >

1. コスト削減・IT活用による企業体質の一層の強化
2. 地域密着型グローバル化の推進と営業分野間のシナジー効果の追求
3. ロジスティクス事業への取り組み強化
4. 輸送技術の革新の追求、安全運航の徹底と環境保全への取り組み強化
5. 経営の透明性と効率性を目指すコーポレートガバナンス体制の強化

2-1. < KV-Plan基本課題1 >

コスト削減・IT活用による企業体質の一層の強化

- コスト削減・企業体質強化は前述の通り。
- ITを活用したBPRとシェアードサービスの推進
船舶関連・物流システムの共同開発・利用
- 基幹業務システムの増強整備
「GAPP」グローバルアプリケーションネットワーク本格稼働(4月)
- グローバルネットワークの強化
米国に“K” Line Global Systems, Inc (KGS)を設立し、
グローバルIT戦略を立案し推進する拠点とする。(9月)
- ITを駆使した総合物流業のグローバルな展開支援
物流の統合管理を可能とする顧客向けVisibility
Management System (VMS) 開発

2-2. < KV-Plan基本課題2 >

地域密着型グローバル化の推進と営業分野間のシナジー効果の追求

- 川崎汽船の国内営業総代理店として(株)ケイラインジャパンを設立し、コンテナ船営業を中心に営業強化を図る。(10月)
- 欧州近海完成車輸送事業の完全自営化(6月)中国 China Shippingとの合弁契約締結
- 資源輸送事業の欧州(ロンドン)拠点開設、大西洋、地中海水域の積極的ビジネス展開目指す。(7月)
- 天然ガス輸送事業の米国拠点開設(5月)
- 不定期船、油槽船のシンガポールにおける営業展開推進ならびに船隊整備

2-3. <KV-Plan基本課題3>

物流事業への取り組み強化

- ケイライン物流ホールディングス社 (KBHS) を中心に国内物流子会社の資本集約を図る。
- 米国に“K” Line Total Logistics, LLP (KLTL) を設立し、北米を中心とした SCM を提供強化。(2002年6月)
- “K” Line Total Logistics (KLTL) サービスロゴ制定(2003年1月)
- タイ、インドネシアにおいて国際物流のワンストップサービス開始。(2002年7月、2003年3月)
- インドネシア陸送合弁会社設立(2003年5月)
- 上海合弁フォワーディング会社設立認可取得(2003年12月)

2-4. < KV-Plan基本課題4 >

輸送技術の革新の追求、安全運航の徹底と環境保全への 取組み強化

- 圧縮天然ガス(CNG)輸送研究における米国EnerSea Transport社及び現代重工業との戦略的提携、CNG輸送船の主要設計の承認(5月)
- 「環境レポート2003」の発行(8月)
- タンカー船隊100%ダブルハル化にむけ整備(8月)
- タンカー大規模事故演習の実施(11月)
- ISO14001の用船への拡大認証取得(9月)
- Dow Jones/FTSE社の社会的責任投資インデックスに採用
- 海上コンテナへの貨物積付けプラン作成システム(VAN-PRO)開発(8月)
- 船舶運航診断システム稼動開始(11月)
- 危険品貨物ハンドリング・ガイドの社内イントラネット化

2-5. < KV-Plan基本課題5 >

経営の透明性と効率性を目指すコーポレートガバナンス体制の強化

- **コンプライアンス委員会設置 (03年4月)**
- **ストックオプション制度導入・実施**
- **自社株買受け実施 (2003年12月)**
- **経営陣参加のIR活動推進 (IR meetingの四半期毎開催)**
- **株式交換による太洋日本汽船と神戸棧橋の完全子会社化 (2002年9月)**
- **グループ経営懇談会を開催 (2002年5月以降)**